



2026年5月13日

各 位

会 社 名 株式会社 小糸製作所
代 表 者 名 取締役社長 加藤充明
(コード番号 7276 東証プライム)
問 合 せ 先 専務取締役 大嶽孝仁
(TEL 03-3443-7111)

特別損失（減損損失）の計上及び業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2026年3月期においてLiDAR事業及び中国事業に係る特別損失（減損損失）を計上いたしました。また、2026年1月30日に公表いたしました2026年3月期通期業績予想値と本日公表の実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 特別損失（減損損失）の計上について

(1) LiDAR事業

当社のLiDAR事業は、ADAS（高度運転支援システム）や自動運転向けシステムの開発進展を背景として、日・米・欧を中心に車載用途向けの需要拡大を見込んでおりました。

然しながら、車載用途向けは、自動車メーカーにおける車両開発の遅れに伴うロードマップの見直し等により、当社LiDARにおいても発注キャンセルが発生するなど、今後の需要の不確実性が高まっております。

このような環境を踏まえた今後の事業計画の見直しに伴い、当社グループのLiDAR事業に関する固定資産について将来の回収可能性を検討した結果、2026年3月期第4四半期連結会計期間において143億円を減損損失として計上いたしました。

尚、当社のLiDAR事業は、開発済みの商品ラインナップを活用し、LiDAR搭載ニーズの高い建機・産機・農機や、トラック・バス・ロボタクシーなど商用車を含むインフラ分野を中心に、引き続き拡販に取り組んでまいります。拡販においては、開発費や固定費の抑制・適正化を図りつつ、投資効率を強く意識し、投下資本に対するリターン及び回収可能性を精査しながら、推進してまいります。これにより、売上拡大のみならず、確実に収益へと結び付ける事業運営を徹底してまいります。

(2) 中国事業

当社中国事業においては、主要顧客である日系自動車メーカーの販売不振の継続等に対し、生産能力の最適化・生産性改善のため、湖北小糸車灯有限公司の標識灯生産機能の広州小糸車灯有限公司への移管など生産体制の見直しを進めてまいりました。

この生産移管等に伴い、収益性の低下が認められる当社グループの固定資産について将来の回収可能性を検討した結果、2026年3月期第4四半期連結会計期間において57億円を減損損失として計上いたしました。

当社は今後とも、中国事業をはじめ、グローバルで各地域の量に見合った生産体制を整備し、収益性の改善を図ってまいります。

2. 2026年3月期通期業績予想値と実績値との差異（2025年4月1日～2026年3月31日）

（1）業績予想値と実績値との差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 913,000	百万円 45,000	百万円 51,000	百万円 28,000	円 銭 104.75
実 績(B)	947,610	51,438	58,791	16,539	60.23
増 減 額(B-A)	34,610	6,438	7,791	△11,460	
増 減 率 (%)	3.8	14.3	15.3	△40.9	
(ご参考) 前期実績 (2025年3月期)	916,709	44,873	49,147	46,240	156.49

（2）差異の理由

連結業績は、為替換算の影響に加え、日本における当社受注車種の販売増加や、米州でのハイブリッド車需要増、得意先販促キャンペーンに伴う当社受注車種販売増加などもあり、売上高は予想値を上回りました。

利益においては、増収に加え、中国・欧州における生産体制見直しによる改善効果の拡大などにより、営業利益・経常利益は予想値を上回りました。一方で、親会社株主に帰属する当期純利益は、上記減損損失の計上等により、予想値を下回りました。

以 上